

一般質問



久 枝
議 員

○高齢者等わくわく・おでかけ支援事業について

質 26年度の事業の利用実績は、対象者7千112人に対し利用者は4千142人、利用総額が約2千453万円となっている。利用率で見ると外出支援券は81・6パーセントに対し温泉優待券は14・7パーセントと少ない。利用されていない温泉優待券の分は、外出支援券を増やすとか外出支援券と併用できるようにはできないか。

答 この事業に関しては、これまでいろいろなご要望を受け、温泉優待券を導入した経緯もあります。それぞれの利用目的がありますので、現時点での併用は考えておりません。

○九電2号機に対する白浜五地区交通対策及び新道建設について

質 発電所建設当時から未だに解決できていない白浜五地区から出されている交通安全対策上の要望事項3件について尋ねたい。交通事故が発生したり、地元の方からは不便を感じるとの声を聞く。

MR線発電所駅に隣接する踏切の安全対策の件の対応はどうか。

答 踏切に関しては、数多くの課題があり早急な実現は困難なため、舗装補修や一時退避場所の確保について実施することとしております。

質 白浜団地入口にある日ノ前バス停付近の押しボタン式信号機を車両感知式に替える件の対応はどうか。

答 車両感知式信号機の設置が必要だと認識しております。引き続き五地区の皆さまとともに警察署等の関係機関に要望し、安心して国道への出入りができるような対策に取り組んでまいります。

質 黒潮地区の米穀店前の横断歩道に押しボタン式信号機を設置する件の対応はどうか。

答 警察署に要望しておりますが、現在のところ横断歩道利用者や出入り車両が少ないことなどから新たな信号機の設置は困難との回答を受けております。警察署では、交通量調査を踏まえ検討されると思われますので、今後も警察署と連携して安全対策には取り組んでまいります。

質 白浜中央線と白浜団地入り口が交差する地点から発電所駅裏の方に向かつて新しい道をつくることはできないものか。

答 現地を確認しましたが、計画路線上には高低差がかなりあるなど、安全性にも道路構造令上の課題があり施工は困難だと思われます。

一般質問



椎 山
議 員

○ふるさと納税について

質 納税者に対し、昨年10月30日から市の特産品をお返しする制度に切り替え、約1年となりますが、納税の実績額は幾らになりますか。あわせて平戸市、伊万里市の納税額と両市の出身者及び市外の出身者の納税額の割合はどのようになっていますか。

答 昨年10月末以降1年間の実績は、約1億7千万円となっております。平戸市は約25億7千万円、伊万里市は約6億5千万円という状況です。ご寄附頂いた両市出身者とそれ以外の市外出身者の割合については現在のところ確認しておりません。

質 議員会派で平戸市に研修に行ったおり、平戸市の取り組みはすごいと感じました。本市のようにどこかの業者に任せるのではなく、市の職員が直接業務に携わっております。本市もそのように取り組む考えはありますか。

答 先に平戸市の状況を調査し、本市も同様な取り組みができるかどうか検討もいたしましたが、寄附金の受付方法であるとか、お礼品の発送

手配など、全く同じような取り組みは難しいと判断しました。結果として一部を委託代行する現在の方式を実施しております。

○電源立地地域対策交付金について

質 去る10月15日、県に対して市の事業9件を申請されておりますが、現時点で県としてどの程度の事業採択をして頂ける見込みですか。

答 28年度事業として9事業、事業総額5億2千650万9千円の申請をいたしております。県に問い合わせたところ、現在、県と国とで限度額算定等の段階とのことで、未だ交付決定の手続きには至っていないのとことです。

質 火力発電は海水を利用しないといけない事業のはずですが、その割に、漁民漁協に対する振興策がないとの声があります。このようでは九電2号機建設再開の同意も難しいのではないかと思います。これまでの漁業に対する振興策の内容をお示しください。

答 電源関係の財源による水産関連事業としては、漁業経営基盤安定化対策、水産業経営構造改革、燃油高騰緊急対策、マグロ養殖事業補助金に約3億円を活用しております。